

国 語

□ 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。

われわれの周囲には多種多様な現象が、①かつ現われ、かつ消えてゆきます。②その変幻する現象をすべてありのままに見、ありのままに聞き、ありのままに触っていたのでは大変です。なんとか、少しずつまとめる必要があります。

水という概念があれば、さまざまな液状のものをこの概念でまとめることが出来ます。液体という概念は水ではまとめきれないものも、ひとつにまとめます。どのような容器にでも入り込む能力を有するものが液体で、水であるが、血であるが、油であるが、その内容はなんでもいいのです。一定の形をとらない、困い込んでおかないと流れ出す、という性質だけが液体という概念のポイントです。

どうしてこのような③整理が出来たかという点、液体とaドウスイジュン^④の概念としての固体や気体との対比からです。液体を一定の体積はあるが、一定の形状を持たないものとまとめると、固体の概念がはつきりします。固体は一定の体積と一定の形状を持つものとまとめることが出来ます。じゃあ、ものは何でしょうか。気体です。空気には一定の体積はありません。もちろん形状もありません。でも、存在します。

さらにこの三種の状態は同じ物質に見られます。水は零度で固体になり、常温では液体で、一〇〇度になれば沸騰^{たぎら}して気体になります。鉄だって、温度を上げてやればどろどろの液体になります。もし、もつと上げることが可能ならば、気化する鉄を観察出来るはずです。固体・液体・気体は実は同じ物質の違う表情なのです。ですから固相、液相、気相と呼ばれることもあります。④相は姿です。

このようにすつきり分類出来るとわれわれはわかったと感じます。いまままで整理のつかなかったものがある見方で整理されたわけです。科学はある意味では分類の学問です。学者は植物や動物やbコウブツ^⑤や病気など、さまざまなものを分類しようとして日夜格闘しています。いったい何のために分類などするのでしょうか？ 世界をわかる(≠分かつ)ためです。

分類の営みは科学でもっとも著明ですが、なにも科学に限りません。文字も宗教も人間の知的な営みはすべてわれわれのまわりの現象をなんとか分類しようとしています。

中国では古くから世界を「陰」と「陽」にcブンカツ^⑥して理解しました。すべては陰か陽であり、両者が合わさって世界が出来上がると考えたのです。昼は陽であり、夜は陰です。太陽は陽であり、月は陰です。火は陽であり、水は陰です。天は陽で地は陰です。男は陽で、女は陰です。南は陽で北は陰です。表は陽で裏は陰です。堆積しているところは陽で、沈んでいるところは陰です。動は陽で静は陰です。わからない現象はすべてこの原理にのっとって、陰陽どちらかに分類することで、わかったと感じたのです。病気も陰陽で理解します。あるdショウジョウ^⑦が陽だとわかれば、陰の働きを持つものを与えてやれば治るはずです。⑤実際に治るか治らないかはさておいて、その原理に照らし合わせて、その原理にうまくはめ込めればわかったと思えるのです。

心理的には固体・液体・気体という物質分類と、陰・陽という世界分類に差はありません。岩をみて、これは固体、雨に打たれながらこれは液体、空気を大きく吸いながらこれは気体と、具体的対象を三種の状態にあてはめて、なるほどそうかと思うのも、岩を見てこれは陽、水を見てこれは陰と、ふたつの対立する状態のどちらかにあてはめてわかったぞと思うのも、同じ経験です。

⑥物質の三相理解が本当のわかり方で、世界の二相理解は迷信だ、間違つたわかり方だ、ということはないのです。前者は科学的理解であり、実験で証明出来る事実を表しています。物質は分子から出来ており、熱を与えて分子間の運動を盛んにしてやれば気化し、熱を奪って分子間の運動を静止させてやれば固化します。その中間の熱を与えておけば、液体の顔をしています。

後者は思弁的理解であり、実験で説明出来る事実はどこにもありません。その意味で科学的理解ではありませんが、考え方としては可能です。この原理を使えばたいはいのことは説明出来ます。固体は陽で、液体は陰です。空気も暖かければ陽で、寒ければ陰です。なんらかの分類基準で目の前の現象を分類出来れば、現象が整理出来るだけでなく、ここがポイントですが、心も整理されます。心が整理されると、すつきりした感じがします。「わかった」と感じられるのです。

脳障害ではしばしば心の整理がつかない状態におちいります。自分は病院にいますが、自宅にいます。まわりで世話をやいてくれているのはeカンゴ^⑧婦や医者なのですが、家族に思えたり、近所の人に思えたりします。何が何だか、誰が誰だかわけがわかりません。

健康な人の場合だと、夢で似たような状態が起こります。

夢では、道具もなしに空を飛んでいることがあります。壁があるはずなのに壁を抜けて歩いていたりします。いろんなものが見えますが、花のようでもあり、木のようでもあり、うごめいているようでもあります。明るいか暗いかもよくわかりません。見えているから明るいのでしょうか、まわりは見えないので暗いのもかもしれません。わけがわかりません。

整理、つまり分類が出来ているからわかっているの、分類出来ないとわからないのです。

わかる、というのは心のありようです。自分の分類原理をすべてに適用することです。客観的な分類原理がどこかに存在していて、それが自分に入ってくるのではありません。

古い話ですが、まだ共産主義国家ソ連がしつかりしていた頃、独裁者スターリンの娘がアメリカへ亡命して世界を驚かせたことがありました。その彼女が「人間にはいい人と悪い人がいるだけだ」と語っていたのが大変印象的でした。⑦この彼女の人間理解は広く共感を呼びました。ソ連では当時、主義的に正しい人(つまり政府の主導する社会主義思想に忠実な人)と主義的に正しくない人が区別されており、主義的に正しくない人は逮捕されたり、シベリアへ送られたり、精神病院へ閉じ込められたりしていたのです。彼女はそのような社会に育ちながら、教条主義におちいらず、自分の経験に従って、自分が正しいと思う人間分類をしていたのです。

(山鳥 重 『わかる』とはどういうことか——認識の脳科学』ちくま新書の文による)

*注 概念：「くとは何か」ということについての受け取り方（を表わす考え）。

スターリン：レーニンの後継者としてソビエト連邦を建設した政治家。

亡命：政治上・宗教上などの理由で、本国を脱出して他国に逃げる事。

教条主義：権威者の主張や教えをうのみにして柔軟性のない行動や判断をするがんな態度。

問一 線 a く e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ドウスイジエン b コウブツ c プンカツ d ショウジョウ e カンゴ

問二 線①「かつ現われ、かつ消えて」とはどのようなことですか。次のア～オの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、現れたら必ず消えること

イ、現れたり消えたりすること

ウ、現れてだんだん消えてゆくこと

エ、現れるか消えるかを争っていること

オ、現れるのも消えるのも突然であること

問三 本文を最後まで読み、線②「その変幻する事象をすべてありのままに見、ありのままに聞き、ありのままに触っていたのでは大変です。」について次の(一)(二)の質問に答えなさい。

(一) そのように「大変」な状態について、筆者はどんな具体例をあげて説明していますか。

次の()の中に、本文中から探した漢字一字を補って答えを完成させなさい。

脳障害の例と()の例

(二) ここでいう「大変」とは、われわれが「多種多様な現象」に対してどのように感じている状態のことですか。「くと感じる状態」という言葉につながるように、「く」の部分にあてはまるひらがな五字の言葉を答えなさい。

問四 線③「整理」とありますが、ここでいう「整理」とはどのようにすることですか。本文中から答にあたる七字の表現を探し、抜き出して答えなさい。(記号・句読点は一字と数える。以下の問題も同じ。)

問五 本文中の に入る言葉を、本文中に使われている語句を組み合わせて考え、十五字以上二十字以内で答えなさい。

問六 線④「相は姿です」とありますが、そのような意味で「相」という字を用いている二字熟語を次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア、相談 イ、世相 ウ、相似 エ、首相 オ、相関 カ、真相

問七 線⑤「実際に治るか治らないかはさておいて、その原理に照らし合わせて、その原理にうまくはめ込めれば良かったと思えるのです。」とありますが、このようなわかり方を筆者はどのような言葉で表していますか。五字の言葉を抜き出して答えなさい。

問八 線⑥「物質の三相理解が本当のわかり方で、世界の二相理解は迷信だ、間違ったわかり方だ、ということではないのです。」とありますが、それはなぜですか。その理由を、「わかる」ということに対する筆者の考えにもとづき、「分類原理」という言葉を必ず用いて六十字以上七十字以内で答えなさい。

問九 線⑦「この彼女の人間理解は広く共感を呼びました」とありますが、「スターリンの娘」は、どのような社会に育ちながらどのような人間理解(人間分類)をしていたから、広く共感を呼んだのですか。次の二つの条件に従って、八十字以上百字以内でできるだけ具体的に説明しなさい。

条件1 書き出しは「スターリンの娘は」とし、末尾は「ので。」または「から。」とすること。
条件2 「主義」「人間分類」という言葉を両方とも必ず用いること。

② 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。

四年生になって間もない、春の日のこと。家が同じ方向のキタミさんという女子が、学校帰りに、

「ウニをとりに行かない？」

とさそった。近所の人が、前々日の日曜

「海でとってきた」

と言つて、キタミさんのお父さんのところへ持ってきたそうだ。はつきりとは聞かなかったが、市営プールの方の海と言う。

あのへんは、堤防で釣りをしている人がいる。

キタミさんの家にランドセルを置いて、そのまま行こうとの話になった。市営プールへは、駅からバスだが、キタミさんの家は駅に近い。

寄り道でも、ちよつと遠出になるから、キタミさんの家から母に電話をした。私たちのほか、家にはだれもいなかった。

そのとき、

I

「キタミさんのお兄さんも行く」

とうそが出た。おそらく、子どもだけで海に行くと言つたら禁じられるとの考えが、はたらいたに違いない。キタミさんには年の離れた

お兄さんがいた。

「市営プール前」で降りる。今はプールの季節ではないから、他に降りた人はいなかった。釣り人の姿もない。昼下がりの空のもと、白い

コンクリートの堤防だけが、まっすぐに続いている。

①そのときの私には、ウニはもぐつてとるといふ知識がなかった。イソギンチャクのように、ズックを脱いで足だけつかるくらいで、と

れるものと思つていた。

II

、学校帰りの服のまま来たのだ。キタミさんもそうだろう。

このへんには浜がなく、堤防の向こうは、じかに海だ。どのくらい深いのか、底は知れない。ただただ青い波が、きらめいて上下するばかり。

ような錯覚にとらわれる。

晴れた昼。空と海とをさえぎるものは、ひとつもない。地球が丸いことを思い出させるように、水平線が丸みを a オビで 見えてくる。

私たちは A いくつかの間にか、堤防の上を歩いてきた。ふたり並んでは行けないので、キタミさんが前になる。右下は、コンクリート。左下

は海だ。

波がときおり、足もとの壁にぶつかりくだけ散る。まつ毛の先に、しぶきがかかる。天気はいいが、風が強い。言葉を交わそうとしても、

さえぎられるから、無口になる。

キタミさんは、振り向かない。後ろ姿を、ふとながめる。ウニのいる場所を、彼女はほんとうにわかっているのだろうか。

②キタミさんの背中が、まったく知らない人に思えてくる。

III

歩きはじめてからというもの、彼女の声を聞いていない。

海風はともに吹き付ける。

この先にウニがいるとは、どうしても思えなくなつてきた。なのにキタミさんは、歩みをゆるめない。まるで足が彼女をどこまでもどこ

までも、連れていこうとしているかのように。ウニをとりにきたことさえ、彼女はもう忘れていてではないか。

B 波の角は、目がくらむほど青く輝きながら、くり返し上下する。見ていると、遠近感が失われ、そちらへついで足を踏み出してしま

うだ。

(もどろろ)

と言おうと思う。このままでは、いつか落ちる、いつか波にさらわれる。

ウニごときのためにおぼれ死ぬむなしさよりも、うそをついてきた後悔が、胸をつかんだ。今落ちたら、今向こうへ一歩踏み出したなら、

私はずそをついた子どもとして、母に記憶されるだろう。

けれども、風が言葉を吹きさらされたように、

(もどろろ)

の声が出ない。波がまた壁にあたって、しぶきを散らす。

いつ、どんなきつかけで踵を返したのか、C 覚えていない。私たちはまたもとの「市営プール前」の b テイリユウジヨから、バスに乗っ

てもどってきた。

二人とも、③ 遠いところから帰つたように深くつかれ、キタミさんの家にランドセルだけとりに寄り、ろくに口もきかず別れた。ウニの

話など、初めからなかったかのよう。D 思い出したのは、家に着いてからだ。台所の母が、夕飯のしたくをしながら、いつものように振り向い

て、

「ウニはどうだった？」

と尋ねた。

そのとき私は、まったく突然、床に身を投げ出し、声を上げて泣きたいような気持ちにかられた。何ごともなく帰れてほつとしたのか、

うそをつき危ないことをしたことへの e シヤザイの思いか、わからない。

が、四年生の私は、うちあけることをしなかった。なにげなさをよそおつて、

「いなかった」

とだけ答えた。

どのくらい危険だったのか。あるいは何でもなかったのか。
(引き返さなければ)

と思いつながら堤防を歩きつづけたあの時間は、きらめく波光や、ふくらみ上がる水平線の美しさとともに、日常の流れから切り離された時間として、記憶されている。

④もうひとつ、胸の痛み思い出がある。やはり四年生のとき。家には人ひとり入り込めるくらいの納戸があり、本棚をいくつか置き、書庫のようにしてあった。私はそこで、何とはなしに本を引っぱり出してはながめていた。

ざら紙をどし合わせた冊子が、本と本との間にはさまっていた。その表紙を目にして、私は愕然とした。幼稚園の卒業文集だ。ひらがなで姉の名前が書いてある。

私も同じ幼稚園だったから、わかる。卒業を前に、楽しかったことなどを先生に話し、先生が代わりに文字にして、謄写版で印刷された。表紙には、自分で描いた絵をはって、その上にさらにろう紙をはり、すれて消えないようにする。

そのろう紙が、赤いクレヨンで、下が見えないほどぬりつぶされていたのである。のみならず「へたつぴ」となぐり書きのような字が、へた、とののしるよきの言い方だ。

文集が姉のだということ、こんなことをするのは、私以外考えられない。自分ではまったく覚えていないけれど、たぶん姉とケンカして、三つ違いの姉には口でも腕力でもかなわないから、納戸にこもって泣いたのだ。あるいは、前の家でのことか。

そのときに、たまたまこれを見つつけ、くやしきまぎれに、クレヨンをぬりたくったのだろう。

私を愕然とさせたのは、e 無残にぬりつぶされた絵もさることながら、そこに書かれた「へたつぴ」の字である。姉に⑤太刀打ちできないから、代わりに絵を、線と言葉とで二重に辱める。そのやり方に、私は⑥はげしい恥を感じた。

私が覚えている小さいころの日々は、ときにしかられることこそあれ、いつものびのび過ごしていたし、まわりのだれをも好きだった。そんな自分の中にも、人に知られぬところできた言葉投げつける感情があったとは。

けれども、姉にわびる勇氣は、私にはなかった。このままだれにも気づかれぬことを祈りながら、本棚の奥深くしまい込んだ。そうして私は、またひとつ秘密を持った。

(岸本葉子『本はいつでも友だちだった』ポプラ社の文による)

*注 踵を返す…あとまどりする。引き返す。

謄写版…原紙に鉄筆で書いたりタイプライターで打ったりして印刷する、簡単な印刷機。

納戸…衣服を入れたたんすなどをしまっておく物置用の部屋。

問一 線 a ~ e のカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなで読み方を答えなさい。

a オ (びて) b テイリュウジョ c シャザイ d 刷 (る) e 無残

問二

I	II	III
---	----	-----

 に入る言葉としてそれぞれ最も適切なものを次のア~キの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア、だからこそ イ、なぜならば ウ、そう言えば エ、とは言っても
オ、とつさに カ、何だか キ、それなのに

問三 線①「そのときの私には、ウニはもぐつとるとどう知識がなかった。」という表現から、この文章は大人になった筆者が少女時代を思い出しながら書いているということがわかります。

線①よりも前の本文中から、同じようなことがわかる一文を探し、最初の五字を抜き出しなさい。

問四

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

 に入る表現として最も適切なものを次のア~オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分たちはすでに海にもぐって、ウニを探しはじめている
イ、自分の身体で波に逆らいながら、一步一步沖へと進んでいく
ウ、自分たちのほかには、釣り人さえだれもいなくなってしまう
エ、自分は市営プールで泳いでいるうちに、海に出てしまった
オ、自分がすでに沖にいて、外洋とじかに向き合っている

問五 堤防の上を歩いていた時のことについて、次の(一)~(五)の質問に答えなさい。

(一) ~ (五) 線 A 「いつの間にか」・C 「覚えていない」・D 「思い出したのは」などの表現からは、堤防の上を歩いていた時の記憶がとぎれとぎれであったことがわかります。堤防の上で過ごしたこのような時間を、筆者はどう表現していますか。その表現を本文中から探し、十五字以内で抜き出して答えなさい。

(II) くく線B「波の角は、目がくらむほど青く輝きながら、くり返し上下する。」という表現からは、(I)とは反対に細かいところまではつきり記憶していることもあつたことがわかります。

そのような記憶の中でも特に身体で感じとっているものを本文中から探し、十五字以内で抜き出して答えなさい。

問六——線②「キタミさんの背中が、まったく知らない人に思えてくる。」とありますが、それはなぜですか。

その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分と同じように臆病だと思っていたキタミさんが、強引に先へ先へと進んでいくのに腹を立てているから。

イ、ウニを取りに行こうと誘ったキタミさんが、何も知らないようなので急に頼りなさそうに見えてきたから。

ウ、言葉も交わさず振り向きもしないで歩き続けるキタミさんの心の中がわからず、不安になってきたから。

エ、ふだんのようにやさしく言葉をかけてくれないキタミさんのよそよそしい態度を、さびしく感じているから。

オ、いつもなら自分の言うことに耳をかたむけてくれるキタミさんが、今日はまったく聞く耳を持たずとしないから。

問七——線③「遠いところから帰ったように深くつかれ」とありますが、このような比喩を用いているのは、「ウニとり」がどんな体験だったからですか。次のア～オの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、学校の勉強や日常の人間関係から解放され、のびのび過ごすことのできた貴重な体験。

イ、新鮮な感動の中に不安や後ろめたさがあり、それらが重たい意味を持っている体験。

ウ、ウニをとるという本来の目的を果たせず、無力感やむなしさはかりが残っている体験。

エ、危険をかえりみずに新しいことに挑戦し、充実感や明るさに満ちあふれた体験。

オ、仲の良い友だちと心が通じ合わないまま、無意味な時間を過ごしたつらい体験。

問八——線④「もうひとつ、胸の痛む思い出がある。」とありますが、ウニをとりに行ったことが「胸の痛む思い出」であるのはなぜですか。次の文章のA・Bに指定された字数で本文中から適切な語句を補い、答を完成させなさい。

うそをついて危険なことをしてしまったことに対する A (二字) を母にうちあげようとせず、
B (十字) てしまったから。

問九——線⑤「太刀打ち」という言葉の使い方として適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、彼に太刀打ちできるような優秀な選手はうちの学校にはいない。

イ、努力すればどんなに難しい問題でも太刀打ちできるようになる。

ウ、自分が正しいなら自信を持って誰とでも太刀打ちできるはずだ。

エ、明日の試合で昔からのライバルと太刀打ちできるのが楽しみだ。

オ、みんなで決めたことに対してはだれも勝手に太刀打ちできない。

問十——線⑥「はげしい恥を感じた。」とありますが、それはなぜですか。

その理由として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、姉とケンカしてもかなわないと思って、卒業文集の姉の絵をクレヨンで塗りつぶし、そればかりか姉に面と向かって「へたっぴ」とののしったから。

イ、姉の絵をクレヨンで塗りつぶし、「へたっぴ」という言葉まで書きつけておきながら、姉にわびる勇気が持てなくて、本棚の奥に隠していたから。

ウ、姉とケンカしてもかなわないと思って、姉の卒業文集に自分が描いた絵を勝手にはりつけ、姉が自分で「へたっぴ」と書いたように見せかけたから。

エ、姉の絵をクレヨンで塗りつぶし、姉に面と向かって「へたっぴ」とののしっておきながら、姉にわびる勇気が持てなくて、そのままずっとだまっていたから。

オ、姉とケンカしてもかなわないと思って、卒業文集の姉の絵をクレヨンでぬりつぶし、そればかりか「へたっぴ」というきたない言葉を書きつけたから。